

余白の風

求道俳句誌

二〇一七年七月号
第二二七号
奇数月二〇日発行

発行と一
栄
主幸・白
余平

俳句や短歌をつくりながら、「南無アツバ」の心を養います。

会員作品とエッセイ

*選評

祈り

練馬・魚住るみ子

就寝の祈りを捧ぐこの夜もかけがえの無
き今日が過ぎゆく

一病息災のお恵みならむ南無アツバセー

ブなしつつ病やまひと仲良く

『風の道』

靄もももる水平線のあなたにし真紅の落日
すつぽりと消ゆ

*①②井上神父は晩年、老いの辛さや病の苦し
みを隠しませんでした。その姿は、ゲッセマネ
の園のイエス様の御姿を彷彿させるものでし
た。祈りのなかで私たちは、このお二人の姿に
あやかることになります。

名古屋・片岡惇子

野苺の酸っぱき郷愁マリア様

十字架を隠し灯籠苔生して

棹をさす時を余白に鮎を待つ

夏の風祈りの中に忍び来る

黙想の耳に行き来す老鶯よ

三位一体頭で回す蜘蛛の糸

*②かつて『隠された十字架』という梅原猛の
評論がありました。私たちは、神は十字架に
隠れておられ、かつ啓示されている、というキ

リスト教原初の信仰を今この時代に、もういち
ど新たにしたいと思えます。

豊田・佐藤淡丘

万緑を水に映して池平ら

水鏡帰燕近しと水敲く

池めぐる水の深さや梅雨に入る

濃あぢさぬそつと手をおく高さかな

木下闇入るをためらひ入るもよし

人間には「親水性」というべきものがあるの
でしょうか。当然のように、野池を囲む小径に
来ると決まって一瞬立ち止まり、この広い池面
を眺め、この水鏡と空との融合の妙に感動を覚
えます。咄嗟に両手を広げ、天を仰ぎ、「南無
アツバ」と唱えます。こうして水の眺めは心
にうるおいや慰めを与えてくれる、大切なことを
私に教えてくれます。南無アツバ。

*首都圏の水害は水不足で危機的な一方、九州
では集中豪雨で大きな被害が出ています。人為
的罪科はもちろんのこと、自然災害と神という
問題は、やはり大きなテーマです。

大阪・島一木

聖母子の絵のもと一家の豆御飯

正座してロザリオ祈る暑さかな

祈るより早く鳴きだす秋の蝉

*①聖母子の御絵と豆御飯にこの一家の絆が
象徴されています。②この「暑さ」は十字架を
黙想する素材となります。③より早く鳴きだし
た「秋の蝉」は、声細くとも祈りの先駆けです。

昭島・新堀邦司
下駄ならし春の良き日を旅立てり
三世代すこやかにして雛祭
独活齧り余生といふもほろ苦し
白鳥の一声のこし帰りけり

*①「かまやつひろし逝く」と詞書。六〇〇七
〇年代にかけてのグループサンズやフォーク
の時代がなつかしい。③この「ほろ苦さ」は味
わってみないとわからない。

高知・赤松久子

アンナの日弟よりの桃届く

夏まつり雨吹き飛ばす鳴子の音

夏まつりひっそりと逝く隣り人

雨雲に虹現れり南無アツバ

風に乗る雲の乱れや秋近し

*③「孤独死」という言葉が定着していますが、
はた目には「ひっそりと」逝ったかもしれませ
んが、キリスト者の目から見ればそうは映らな
い。どのような形であろうと「神無しに」(マ
タイ一〇・二九、岩波訳参照)死ぬことはない。

東京・小熊坂満邦

夏めくや全山緑さまさまに

ザビエルの上陸の碑や花の雨

*②スコセッシ監督の「沈黙」は、私たちの信
仰を点検するうえで、たいへん有益な映画でし
た。最新号「風」一〇二号が、特集を組んでい
ます。ぜひお読みください。(お問合せは「風」
編集室 TEL/FAX 086-227-5665)

蓮田・平田栄一
十字架に成し遂げられし御業かな
ヨハネ一九

イエスは「成し遂げられた」と言つて息を引
き取られた。イエスの十字架の死は、すべてが
無に帰する単なる終わりではなく、「救い」と
いうイエスの役割、アツバの御業の「完成の時」。
この十字架に心を合わせる時、わたしたち各自
の人生も、完成へと導かれる。

平田講座要約(第四六回) 2014-4 続

(テキスト『心の琴線に触れるイエス』聖母文庫)
葬儀後、出棺の時、ものすごい春一番——ま
だ「春一番」とは知らなかった——が吹いてい
ましたよね。私は斎場へ向うバスの中で、やは
り町野さんの隣に座っていたのですが、「この
強風まさにプネウマに吹かれての出棺ですね」
と言ったら、「プネウマはもつと優しい風で
す！」と叱られました(笑)。

岡田大司様や伊藤神父ら6人の神父様、お
姉さまのシスター井上、姪御さんたち、そして
町野さん・山根家の人たちと骨上げして、真つ
白なお骨を拝み、今またこの井上神父のお声
こうして聞くと、先ほど申し上げたように、死
に際には本当にお辛かったと思いますが、この二
年前のお話、ご本人の願いのとおり、本当に、
「南無アツバ、アツバ、アツバ」と唱えながら、
アツバに迎えられたのでした。

そういう意味で、神父様はいろいろ苦勞もあつ
たけれど、最後まで町野さん他多くの人に支えられ
祈られ、幸せな人生を全うされたのだと思います。
最初にお話ししたとおり、今は、アツバの懐
で、パウロが言ったように「顔と顔を見合わせ

て」「アツバ、アツバ」と唱え続け、私たちの
これからの人生にお力を貸してくださると思
います。私たちも祈り合いましょ。う。
アツバ、アツバ、南無アツバ

同 第四七回 2014-5-24

テキストに戻ります。前回まで北森神学VS
井上神学の「十字架のイエスの痛み」の対比の
ために、青野神学を加えて様々に比較していま
す。

p・53

：私の場合もイエスの痛みというのはもち
ろんあります。けれどもその痛みというのが、
御父の神様までいってしまうとね、なんかこう
きついつて言うか、息が切れるつて言うかな：
。

やはりパウロつてのは激しいでしょう。北森
先生の場合はパウロが中心になっていますか
らね、私などには何かもう少しこう：：そこま
で頑張らなくてもね。キリストが秋風に、こ
うなびいているような感じのところ、何とか
ならないかなと、そういう感じで(笑)。なん
ていうかな、重すぎるつていうか。

：私のイエスはやさしいのです。イエスのま
なざしはやさしいわけですよ。(戸田義雄編
『日本カトリシズムと文学』一九五二〇一頁
抜粋)

「わたしのイエスはやさしいのです。」この部
分の補足をします。

この対談(八二年一月)の直後に、井上神父
は戸田先生を通してサンドメルに出会って「目
から鱗」体験をします。

神父にとつてそれまでも「やさしいイエス」
は、テレジアを知つて以来ゆるぎない確信だつ
たのですが、『マタイによる福音書』などに出
てくる厳しいイエス、怖いイエスの言葉とどう
折り合いをつけたらいいのか、正直なところず
つとひっかかっていたわけ。つまり、この
対談の時には、まだひっかかりがあったとい
うことになりました。それでサンドメル『天才パ
ウロ』を読んで、その葛藤のからくりという
福音書の立場が読み解けていったということ
です。

すなわち、ややもすれば道徳的に教会運営に
支障をきたすような、パウロのラディカルな
「信仰義認論」不信仰(で神なき)者を無条
件・無制限にゆるす神またイエスへの信仰・信
頼——というパウロ神学が、われわれが想像す
る以上に、新約聖書が書かれた時代に、教会に
蔓延していたということ。それでマタイは、こ
のパウロの信仰義認論を、はき違えて「キリス
ト誇り」で不道徳に陥る輩を戒め、また、キリ
スト教がローマに評価の高かつたユダヤ教の
一派というイメージを持たせて、迫害を防ごう
と意図したということが、飲み込めたわけだす。

南無アツバの集い&平田講座(毎月) 於：
四谷ニコラバレ、日時7/22(土)13時半、
8/26(土)同、9/23(土)同

「余白の風」入会案内

どなたでも参加できます。購読のみも可*
年六回奇数月発行*年会費千円(送料共)*
採否主宰一任*締切〓偶数月二十日*お問合
せ先・ブログ「南無アツバを生きる」余白メ
ールよりお願いします。(平田栄一)